

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520124

研究課題名(和文) アジア近代美術における「ローカルカラー」と「アイデンティティ」形成

研究課題名(英文) "Local Color" and "National Identity" in Asian Modern Art

研究代表者

後小路 雅弘 (Ushiroshoji, Masahiro)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：50359931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：ジム・スパンカット氏、T.K.サバパシー氏など東南アジアの代表的な美術史家にインタビューし、その協力を得て貴重な関連資料を収集することができた。また、一次資料として、日本軍占領下に発行された邦字新聞、英字新聞、華字新聞に加え、現地発行の雑誌等を併せて読んで、美術関連資料を複写収集した。これらの資料により、これまでほとんどわかっていなかった東南アジア各国の日本軍政下における官設美術展をはじめとする美術活動について実態を把握することができた。さらに、そうした場で求められた「ローカルカラー」と独立後のナショナル・アイデンティティの関係について、東アジアの場合と比較しながら、考察を深めた。

研究成果の概要(英文)：This project interviewed leading Southeast Asian art historians, such as Jim Supangkat and T.K.Sabapathy, etc. With their assistance, valuable relevant materials were collected. As far as primary sources are concerned, in addition to the Japanese, English, and Chinese newspapers published under Japanese occupation, local magazines etc. were also surveyed in order to collect copies of art related materials. These materials lead to understanding of the actual conditions of the artistic activities-beginning with the government sponsored art exhibitions, in the Southeast Asian countries under Japanese military rule that was almost unknown until now. Moreover, the project deepened the study of the relationship between the local color expected in the above situation and the national identity of post-independent era.

研究分野：美学・美術史

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：東南アジア 近代美術 日本軍政 ローカルカラー ナショナル・アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

以前は、ある種のタブーであった東アジアの植民地期の美術研究は、韓国、台湾においても過去10年あまりの間に、とりわけ官設美術展(朝鮮美術展、台湾美術展)の制度史的研究を中心に、進展を見せている。こうした官設美術展を中心にした植民地期の近代美術史研究において、常に課題としてあげられるのは、「ローカルカラー」(あるいは「郷土色」「地方色」)の問題である。また、近年、「ローカルカラー」を展覧会の形式で問題とする例も見られるようになった。

申請者は、東南アジアを中心にアジア地域の近代美術の展開と、そこに果たした日本の役割について研究してきた。とりわけ、日本の軍政下にあった東南アジアでは、文化政策、あるいは民衆宣撫のために官設美術展が開かれ、朝鮮美術展や台湾美術展で行われたのと同様に、官設公募美術展における審査授賞制度を通して、「大東亜共栄圏」における望ましい美術が奨励され、そこでは、ローカルカラーという用語は用いられてはいないものの、「その土地らしさ」や「東洋的であること」が求められ、推奨された。上述したように、東アジアのかつての植民地における官設美術展とローカルカラー研究は、近年急速に厚みを増しつつあるが、東南アジアにおけるそれは、当の東南アジア諸国においてもまだ研究されていない。

したがって、申請者は、研究の進展しつつある東アジア近代美術における「ローカルカラー」議論をふまえ、それとの比較のもとに東南アジアにおける「その土地らしさ」や「東洋的であること」の要請が、東南アジア諸国の近代美術の展開にどのような意味を持ったかについて、広く汎アジア的な観点から考察することが必要であると考えた。そのことは、アジア諸国の美術文化において、植民地下にあっては反植民地

主義に抵抗する民族主義的な側面を持ち、第2次世界大戦以後にあっては重要な課題となる「カルチュラル・アイデンティティ」、「ナショナル・アイデンティティ」と連続する問題であり、アジア諸国において共通の重要な課題であると言えるからである。すなわち、外部からの期待としての「ローカルカラー」は、文脈によって、あるいは個々の作品によって、内発的な「アイデンティティ」形成に転換する。その「ローカルカラー」と「アイデンティティ」は、アジア近代美術の重要な要素といえる。

2. 研究の目的

研究目的は、日本の軍政下にあった東南アジアで開催された官設公募美術展において求められた「ローカルカラー」が、支配者権力の期待に沿うものでありながら、同時に民族主義の発露でもあり、戦後独立したアジアにおける「ナショナル・アイデンティティ」形成へと引き継がれるという複雑な関係を、東アジアとの比較をふまえ、実証的に明らかにすることにある。

東南アジアの近代美術研究については、日本ではほとんど研究されていない領域であり、各国においても研究者は決して多くない。とくに東南アジア近代美術史と日本との関係については、「日本」近代美術史の観点からもたいへん意義深いものと思われるが研究は手付かずで、申請者は、ほとんど一人で研究を続けてきた。このローカルカラーとアイデンティティの問題は、近代日本における植民地化、南進政策と密接な関係を持ち、日本近代美術史研究が取り組まなければならない課題である。

3. 研究の方法

東南アジア各国の日本軍政下における官設美術展をはじめとする美術活動を明らかにするために、当該時期に軍政下で発行された邦字紙、英字紙、華字紙などの日刊紙、

雑誌等を読み、美術関連記事を収集、分析した。また、東南アジアの代表的な美術史研究者にインタビューを行い、協力を得て文献資料を収集した。

また、福岡アジア美術館における「官展にみる近代美術展」開催にかかわって共同調査を行い、また国際研究会のモデレーターを担当し、東アジアの官設美術展研究を比較材料とすることができた。

4. 研究成果

ジム・スパンカット氏、T.K. サバパシー氏など東南アジアの代表的な美術史家にインタビューし、その協力を得て貴重な関連資料を収集することができた。また、一次資料として、日本軍占領下に発行された邦字新聞、英字新聞、華字新聞に加え、現地発行の雑誌等を併せて読んで、美術関連資料を複写収集した。これらの資料により、これまでほとんどわかっていなかった東南アジア各国の日本軍政下における官設美術展をはじめとする美術活動について実態をある程度明らかにすることができた。その成果は、ふたつの論文「日本軍政と東南アジアの美術」(『哲学年報』第72輯 2013年)と「『ジャワ新聞』の美術関連記事 蘭印における日本軍政と「宣撫工作」」(『哲学年報』第73輯 2014年)にまとめた。なお、本年度の『哲学年報』に、シンガポールにおける日本軍政下の美術活動について報告する。

さらに、そうした場で求められた「ローカルカラー」が具体的な作品にどのような形で反映したのかを把握し、さらにそれが独立後のナショナル・アイデンティティとどのような関係をもつかについて、東アジアの場合と比較しながら、考察を深めることができた。その成果は、日本美術史の枠組みの中で、初めて植民地、占領地の美術活動を捉えなおすことを意図した『美術の日

本近現代史 制度・言説・造型』(東京美術 2014年)に、ふたつの論考「概説「日本美術」の領土と制度」および「東南アジアおよび南洋諸島の美術」としてまとめ、また東アジアの官設美術展との比較においては、展覧会図録『官展にみる近代美術』(福岡アジア美術館 2014年)に「東南アジアにおける日本軍政と公的な美術活動」としてまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

1. 後小路雅弘「『ジャワ新聞』の美術関連記事 蘭印における日本軍政と「宣撫工作」」『哲学年報』第73輯 九州大学大学院人文科学研究院 2014年3月 pp.37-64 査読無し
2. 後小路雅弘「日本軍政と東南アジアの美術」『哲学年報』第72輯 九州大学大学院人文科学研究院 2013年3月 pp.49-72 査読無し

〔学会発表〕(計3件)

1. 後小路雅弘「ベトナム人画家たちの日本旅行 1943年」 2013年12月6日・7日 国際シンポジウム「異地と家郷」 台湾大学 台湾・台北市 (招待)
2. 後小路雅弘「『ジャワ新聞』の美術関連記事 蘭印における日本軍政と宣撫工作」 2013年8月31日 第32回アジア近代美術研究会 石橋美術館 久留米市
3. 後小路雅弘「宣撫工作と美術活動 アジア太平洋戦争下東南アジアの新聞を読む」 2013年7月14日 第31回アジア近代美術研究会 福岡県立美術館 福岡市

〔図書〕(計2件)

1. 後小路雅弘(共著)『美術の日本近現代史 制度・言説・造型』 東京美術 2014年
2. 後小路雅弘(共著)『官展にみる近代美術』 福岡アジア美術館 2014年

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

- (1)研究代表者 後小路 雅弘
(UshiroshojiMasahiro)
(九州大学・人文科学研究院・教授)

研究者番号：50359931

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：